

### ■開催概要

- シリーズ名称 : 2022 鈴鹿クラブマンレース Round 3
- 主催 : 熱田レーシングクラブ (ARC)、鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)  
[サーキットトライアル第2戦] 淀レーシングクラブ (チーム淀) 主催  
[LOTUS CUP JAPAN 2022 Rd.1] エルシーアイ株式会社主催
- 協力 : AASC、ARCN、KRHC、OCCK、チーム淀
- 競技 : JAF公認・準国内格式 公認番号2022-2002
- 会場 : 鈴鹿サーキット / レーシングコース フルコース (5.807km)
- 開催レース : 総参加台数 / 94台  
CS2 / 10台  
クラブマンスポーツ / 23台  
FFチャレンジ / 26台  
スーパーFJ / 20台  
FIT 1.5 Challenge Cup / 15台
- 併催クラス : サーキットトライアル第2戦 / 29台  
LOTUS CUP JAPAN 2022 Rd.1 / 11台
- 開催日 : 2022年5月21日 (土)・22日 (日)
- 天候 : 21日 (土) / 曇り、22日 (日) / 晴れ時々曇り
- 路面 : 21日 (土) / ドライ、22日 (日) / ドライ



★レースリザルトはインターネットでご覧いただけます。  
[https://www.suzukacircuit.jp/result\\_s/2022/clubman/](https://www.suzukacircuit.jp/result_s/2022/clubman/)

### ■次回レース開催概要

- 開催日 : 2022年6月18日 (土)・19日 (日)
- 主催 : 京都レーシングハイブリッドクラブ (KRHC)、鈴鹿モータースポーツクラブ (SMSC)
- 会場 : 鈴鹿サーキット / レーシングコース フルコース (5.807km)
- 開催クラス : クラブマンスポーツ (VITA)、CS2 120分耐久レース、スーパーFJ、NゼロVitz関西シリーズ、86/BRZ
- 併催クラス : YarisCup



スーパーFJクラスは5月22日 (日) の午前と午後1戦ずつ決勝レースが開催される2レース制として開催された

## 2レース制で開催されたスーパーFJクラスをはじめ、 各カテゴリで激しいバトルが披露された第3戦

昨シーズンの鈴鹿クラブマンレースは全てのレースがフルコースを舞台に開催されました。今シーズンは前回大会の第2戦のみが西コースで開催され、今回の第3戦以降は再びフルコースでの戦いに。また、今回は5月21日(土)に各カテゴリの公式予選が開催され、翌22日(日)に決勝レースが行われる2DAY大会として開催されました。

22日(日)は今シーズンより「WEST16-C」による「Cクラス」と、同じくウエストレーシングカーズ製の「WEST v.Granz」による「Gクラス」との混走によって開催されることとなったCS2クラスから決勝レースがスタート。その他、スーパーFJクラスが2レース制として開催されたこと、そのスーパーFJクラスのRace2はRace1でチェッカーを受けた順と逆のリバースグリッドでスタートしたこと、さらには一般公道走行可能なナンバー付き車両によって気軽に参加できるタイムアタック競技の「サーキットトライアル」や2007年シーズンより開催されているナンバー付きロータス車両によるワンメイクレースである「LOTUS CUP JAPAN」が併催されたこともトピックでした。

次回第4戦の見どころはクラブマンスポーツクラス(VITA)とCS2クラスを対象とした120分耐久レースの「Clubman Sport 120 Minutes Endurance Challenge (MEC120)」が行われることです。また、NゼロVitz関西シリーズ、新規カテゴリとして開催が決定している86/BRZ(ZN6/ZC6)クラスのレースも注目を集めることでしょう。白熱したバトルが展開されるであろうこの第4戦にも是非ご注目ください。



サーキットトライアル第2戦では1500ccから4000ccまで様々な車両29台が混走。参加者はそれぞれのスキルに合わせてドライビングを楽しんでいた



## ■CS2 class

ポールポジションスタートのいむらせいじが良いクラッチミートを披露してホールショットをゲット。3番グリッドスタートの松本吉章がそれに続く。いむらはオープニングラップから早くも松本以降を若干引き離すことに成功。その後も危なげない走りアドバンテージを広げ続ける。松本も単独2番手に。その後方では吉村一悟とスタートで出遅れた2番グリッドスタートの飯田裕樹がテールtoノーズのバトルを展開。4周目の1コーナー進入で飯田が吉村をパスして3番手になると、すぐに飯田も単独3番手となる。結局、7秒583のアドバンテージを築いたいむらがトップチェッカーを受け、シーズン初優勝を飾った。



予選3位までを「Gクラス」のマシンが占めたこのカテゴリーの公式予選。唯一の2分14秒台である2分14秒641をマークしたいむらがポールポジションからスタート



ディフェンディングチャンピオンのいむら(写真中央)が総合優勝を決めると同時に「Gクラス」のウィナーに。2位は飯田(写真左)。3位は東督也(写真右)だった

■CS2 class



「Cクラス」のウィナーは松本(写真中央)。「Gクラス」のマシンと比べて不利な「Cクラス」のマシンを駆って見事総合2位に入り、開幕3連勝を飾った



## ■クラブマンスポーツ Class

良いクラッチミートを披露してホールショットを奪ったのは2番グリッドスタートの中里紀夫。オープニングラップのS字コーナーでコースアウトしたマシンが複数台あったことにより、セーフティカーがコースに入る。中里、3番グリッドスタートの増本千春、ポールポジションスタートの関正俊のオーダーでレースがリスタート。中里が若干集団を引き離して1コーナーへ。その後方では増本と関が横並びの状態となる。増本が中里のテールを捉えると、5周目のヘアピン進入で中里をパスしてトップに。すぐに中里がトップに返り咲く。4番手を走る上岡広之以降を引き離した中里、増本、関のバトルを中里が制した。



唯一の2分25秒台となる2分25秒971をマークした関がポールポジションを獲得。開幕戦ウィナーの中里が2番グリッドからスタートする



フィナルラップまで続いた3台によるトップ争いを制して真っ先にチェッカーを受けたのは中里(写真中央)。中里は今シーズン2勝目を飾ることとなった



## ■スーパーFJ Class (Race1)

ポールポジションスタートの森山冬星がホールショットをゲット。その森山、居附明利、大木一輝とグリッドのオーダー通りに1コーナーへと突入していく。そのオーダーのままオープニングラップを終了。徐々に森山が単独トップに。その後方で居附と大木がサイドbyサイドのバトルを展開する。大木が2周目に居附をパス。すぐに居附が2番手に振り返り咲く。逆バンクで止まったマシンがあったことにより、セーフティカーがコースイン。リスタート後、接触したマシンがコース上に残ったことにより、再びセーフティカーがコースに入る。2回目のリスタート後も良いスタートを披露した森山がトップチェッカーを受けた。



公式予選では上位7台が2分14秒台をマーク。僅差のタイムアタックを制した森山がポールポジションからスタートすることとなった



森山(写真中央)がポールtoウィン。2位は居附(同左)。3位でチェッカーを受けた清水啓伸(同右)はSC中の追い越しにより、競技結果に30秒加算されて16位だった



## ■LOTUS CUP JAPAN 2022 Rd.1

全国の国際格式サーキットで開催されており、年間の合計獲得ポイント数によってタイトルが決まるロータス車両のワンメイクレース「LOTUS CUP JAPAN」の2022年シーズン第1戦が併催された。初心者からドライビングスキルに自信のあるドライバーまでが参戦したこのレースでは英国車ならではのクリーンなバトルが披露された。



鈴鹿サーキットで開幕となった今シーズンの「LOTUS CUP JAPAN」。5月22日(日)の午前中に公式予選が開催され、同日の午後には決勝レースが開催された



プロドライバーの吉本大樹(賞典外参加)と清水友一(写真中央)がテールtoノーズの状態に。鈴鹿初レースという清水がClass1のウィナーに輝いた



## ■ FFチャレンジ Class

フロントロウからスタートした松下裕一と林陽介が横並びの状態ですスタートする。松下がホールショットを奪うと、その松下、林(陽)、4番グリッドスタートの神原聖一、5番グリッドスタートの開勇紀のオーダーでオープニングラップを終了。トップ集団は松下を先頭にテールtoノーズのバトルを展開する。2周目の130R立ち上がりで松下がハーフスピン。この混乱に後続が巻き込まれ、数台がコースアウトする。これにより林(陽)がトップに。ここでセーフティカーがコースに入る。林(陽)が若干後続を引き離してリスタート。その後は林(陽)がトップの座を明け渡すことなく、このカテゴリー初優勝を飾った。



開幕戦で優勝した松下が公式予選トップタイム、開幕戦2位の林(陽)が同2番手タイムをマーク。開幕戦のウィナーと2位がフロントローを独占する展開に



林陽介(写真中央)がついに表彰台の頂点に。2位は6番グリッドスタートの沼守克則(同左)。7番グリッドスタートの林大輔(同右)が3位でチェッカーを受けた



## ■スーパーFJ Class (Race2)

ポールポジションスタートの岸本尚将と2番グリッドスタートの小松響が横並びで1コーナーへ。3番グリッドスタートのト部和久も良いクラッチミートを披露する。ホールショットを奪った岸本にト部が続く。オープニングラップのスプーンカーブでト部が岸本をパスしてトップに。ここでセーフティカーがコースに入る。リスタート後はト部が抜け出すことに成功。岡本大地が岸本をパスするが、居附明利がその岡本をパスして2番手に浮上する。森山冬星も岡本をパス。居附がト部をパスしてトップに。森山が2番手となる。西ストレートで多重クラッシュが発生したことによりレースは終了。居附の優勝が決まった。



Race1の上位6位までがリバースグリッドでスタートするレギュレーションとされたRace2。Race1で6位となった岸本がポールポジションからスタートする



第2戦でウィナーとなり、第3戦(今回のRace1)では2位となった居附(写真中央)が優勝。森山(同左)は2位でレースを終えた



## ■FIT 1.5 Challenge Cup Class

ホールショットを奪ったのは3番グリッドスタートの杉原悠太。ポールポジションスタートの山内剛志も良いクラッチミートを披露するが、2番グリッドスタートの西尾和早がスルスルッと山内の前に。その西尾がオープニングラップのシケイン進入で杉原をパスしてトップに立つ。西尾、杉原、山内のオーダーでオープニングラップを終了。杉原にスタート違反によるドライビングスルーペナルティが出される。次第に西尾が単独トップに。山内も単独2番手となる。瀬戸貴巨を先頭に3番手争いを展開。横転したマシンがあったことによりセーフティカーがコースへ。西尾、山内、瀬戸のオーダーでチェッカーを受けた。



公式予選ではポールポジションを獲得した山内と昨シーズンのチャンピオンである西尾のみが2分32秒台をマーク。しかし、レースはこのカテゴリーならではの接戦に



セーフティカーランのままレースが終了。西尾(写真中央)が今シーズン初優勝を飾る結果に。山内(同左)が2位。3位は瀬戸だった



## Voice of Pick up Driver

この日、キラリと光った  
ドライバーに一问一答

この日、キラリと光ったドライバー&チームに一问一答  
「Voice of Pick up Driver&Team」。

スーパーFJ Class Race1で優勝

**森山 冬星** 選手 (19歳) DIXCEL/ROYAL/MYST



10ラップ中にセーフティカーが2回も介入したRace1を制したのは森山だった

**Q**今回は2DAYレースということで土曜日に公式予選が行われました。どんな内容の予選でしたか。

「ロングランにはまだ課題がありますが、一発のタイムを狙うことができることはわかっていたので思いっきりアタックしました。その狙い通り、良いタイムをマークすることができました」

**Q**: 10週の決勝レース中に2回もセーフティカーが入りましたね。

「リスタート後は2回とも後続を引き離すこともできたのでスタートに自信を持ってました。こういう展開で勝ってもそれほどうれしくないのですが、まずは今シーズン初優勝を飾ることができて良かったです」

**Q**: 昼からのRace2はリバースグリッドなので6番グリッドからのスタートですね。どう戦いますか。

「スタートは得意なので一気に追いつきたいと考えています。おそらく居附明利選手との一騎打ちになると思います。Race2はRace1より2周多い12ラップでの戦いです。ロングランなので最後まで集中力を切らさず、的確にマシンを操って勝ちたいと思います」